

テーマ：必ず“終わりの日”がやって来る中で、どのようにして忠実に生きていくのか

(*表題:「エドトン」…ダビデが公の礼拝を導くために任命した音楽家の一人[1 歴代誌 25:1-7; 2 歴代誌 5:12; 35:15])

※詩篇 90:10-12

「私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。だれが御怒りの力を知っているでしょう。だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。その恐れにふさわしく。それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。」

○ダビデの姿：忘れてはならない四つの教訓

1. _____を忘れない(1-3)

※詩篇 10:1

「主よ。なぜ、あなたは遠く離れてお立ちなのですか。苦しみのときに、なぜ、身を隠されるのですか。」

※詩篇 13:1

「主よ。いつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。」

※詩篇 22:1

「わが神、わが神、どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。私のうめぎのことばにも。」

※マタイ 5:16

「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

2. _____を忘れない(4-6)

※ヤコブ 4:13-15

「聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と言う人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」」

※ルカ 12:16-21

「ある金持ちの畑が豊作であった。そこで彼は、心の中でこう言いながら考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』そして言った。『こうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産はみなそこにしまっておこう。そして、自分のたましいにこう言おう。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安心して、食べて、飲んで、楽しめ。』」しかし神は彼に言われた。『愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

3. _____を忘れない(7-11)

4. _____を忘れない(12-13)

※ピリピ 3:20

「けれども、私たちの国籍は天にあります。」

※1 ペテロ 2:11

「愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあなたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。」

※ヘブル 9:27

「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、」

※ローマ 2:5-6

「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。」

※1 ヨハネ 4:10

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」